

農園通信

2023年9月・10月

発行・問合せ先：島本町農業振興団体
協議会・町民農園部会 福田

fukuda-ka@amil.plala.or.jp

秋・冬野菜の苗づくり

❖ブロッコリー、キャベツの苗づくり

- 種蒔きの時期は、苗植えが9月初めですので7月中旬～8月初めです。
- 土はやはり種蒔き用の培養土が良いです。発砲スチロールの箱かポットに土を入れます。
- ポイントの1つは「土の水分量」。培養土と言っても商品によって水の含み方が違います。初めは水をはじく土もあります。あらかじめバケツで少し水と親和させてから容器に入れると良いです。そして、十分にむらなく給水させます。土を触ってみて水分が多すぎる時は半日から1日おいて少し水分を抜きます。特に、豆類やトウモロコシは水が多すぎると種が急激に膨張して中の子葉が壊れたり、腐ったりして発芽しません。

「過ぎたるは及ばざるがごとし」

- ポイントの2つ目は「種を深く埋めない」。土を少し押さえてくぼみを作り、そのくぼみに種を1, 2cm間隔で置いて、上から乾いている土をかぶせ少し押さえます。これでOK。水は掛けません（かぶせた土に水は浸みてきます）。そして、土が乾かないように不織布を掛けます。
- このまま2, 3日、日陰に置きます。水やりはしません。心配なら土を触ってみてください。恐らく土は湿っているはずですが、もし土が乾いていたなら、目の細かいジョウロか霧吹きで土を湿らせます。目の粗いジョウロで水を掛けると、根を出しかけている種を流してしまいます。
- 3, 4日で発芽。とっても可愛いです。赤ちゃんです。発芽したらすぐに不織布を外します。
- ここから2週間は水の量と太陽の光の量が大切! 太陽の光が強すぎると双葉はしおれてしまいます。一方水が多く太陽の光が少ないと徒長（茎が細く長い）します。最悪は倒れてだめになります。生まれたての赤ちゃんですから、優しく気配りです。（たとえば、3日に一度水桶に浸けて下から浸水させる。太陽には午前中だけあてるなど）…つづき裏面



畑での虫との付き合い方（1）【アシナガバチ編】

今年、Tの家庭菜園でアシナガバチの巣が4つ見つかりました。道具の棚とその横、掲示板、野菜に立てている支柱。時期は4月～5月。みな女王バチが1匹だけでした。冬を超えた女王バチが新しい巣を作っていたのです。ずっと巣に張り付いて一生懸命巣作りをしていました。（アシナガバチの働きバチは冬に皆死にます）蜂は益虫なので歓迎です。しかし、人間の勝手な言い分ですが、身近に巣を作られたたくさんの働きバチが飛び交うと人とも接触して刺されたりします。おとなしい性格で襲ってくることはないようですが、彼らも攻撃されると思うと向かってきます。毒針を持っています。かわいそうですが、蜂と蜂の巣は家庭用の殺虫剤で落としました。（この時期、蜂は1匹なので失敗なく落とせます。女王バチが卵を産んでファミリーを作る前の4月、5月、巣作りの初期に対処するのがコツです。）



ハチの巣

アシナガバチは野菜の害虫の蛾や蝶の幼虫（いもむし）を食べてくれる心強い味方（益虫）です。昆虫界のピラミッドの頂点に近い存在で、畑にいて生態系は安定することです。

(;^ω^;) 観察が力



自分の畑だけでなく、他の畑もどんどん観察しましょう。野菜作りは1年1回の経験ですが、10人の畑を観察すると10年分経験できます。
レベルアップの鍵は観察にあり

経験談

今年の夏は猛暑と雨不足で畑は砂漠状態で大変でした。みなさんはどう対処されましたか。

(Hさん) 野菜がかわいそうで毎日早朝に水やり。水汲み場からバケツで水を何回も運びます。大変です。

(Yさん) サツマイモはマルチを張って土が乾くのを防いでいるがこの日照り、どうしようもない。半分ほど枯れている。雨を待つのみ。「日照りのときは涙を流し」

(Fさん) 乾く畑のサツマイモ、カボチャ、ピーマン類は3日に一度最低限の水やり。たくさん水はないので、少しの水で我慢させます。台風の前少し元気になったがまた猛暑。周りの人は毎日水やりに来てられるが、自分はその体力も時間もない。この夏を乗り切らねば。もう1か所の田圃の横の畑は、横の田圃から水が浸みってくる。うね下に水が溜まって歩きにくく、またカボチャ、キュウリには根腐れするので不向きな畑だが、夏の炎天下でも一度も水やりしなくて良かった。天国だった。

(Mさん) 高齢なので夏は無理です。草がすごくなっていると思うが、また涼しくなったらゆっくりやります。

(Oさん) トマトの片付けも終わり、分葱、ネギ、大根、ニンニク用の畝づくりを始めているような状況です。(8/18)

(Sさん) トマト・メロン等夏野菜の残渣は短く切って乾燥させてから畝の間に埋め込みました。畝作りと並行して秋野菜の種蒔きをスタートさせました。朝の5時から8時、3時間前後を農に充てていますが、作業がはかどりません。(8/21)

(Hさん) 体調が悪くて8/1~10日間畑に行かなかった。その間に野菜は全部だめになった。



一昔前と夏の暑さが違います！ 加えて今年は雨がでない。時には見捨てることも必要です。健康に生きるための農作業。農作業や自然との付き合い方を考え直さないといけないかもしれません。

【表ページの続き】

- ▶どうしても徒長になりがちです。その時は、乾いた培養土を茎の横に1, 2回盛ります。(水やり)
 - ▶発芽後約20日程で本葉が2, 3枚に成長します。1本ずつに植え替えます。ポットに入れた培養土を十分に濡らし、中央にくぼみをつけます。キャベツやブロッコリーは強いです。苗床から割り箸や手でほぐして1本ずつ取り出してくぼみに置き、小スコップで土を掛けます。そして、ジョウロで水を掛ければ出来上がり。毎日ジョウロで水をやり、太陽にあてる時間も少しずつ増やします。2, 3週間後、本葉5枚のしっかりした苗になれば畑に定植です。
- *無農薬で作りたいときは蝶に卵を産み付けられないように発芽後は必ず防虫ネットを掛けます。蝶の来ない中・上階のバルコニーがあればラッキーです。「蝶は害虫、蜂は益虫」



蝶に注意！



農園の空き情報 問合せ先

町民農園部会：福田

fukuda-ka@amail.plala.or.jp

農園通信のアーカイブ
島本町農業振興団体
協議会のHPに掲載